

平成30年度 虫の日イベント

「人に不快な虫・獣展」実施結果



展示準備完了時の担当会員集合写真

平成30年度虫の日イベント「人に不快な虫・獣展」は例年どおり、虫の日（6月4日（月））によこはま西・ビル環境協議会の共催と、日本家庭用殺虫剤工業会、生活害虫防除剤協議会、日本防疫殺虫剤協会の協力、横浜市保健所の後援をいただき、横浜駅東口の新都市プラザ（そごう前広場）にて開催いたしました。虫の日イベントは平成16年に泉区、平成17年に鶴見区の各保健福祉センターで開催し、平成18年以降は現在の新都市プラザで開催を続けております。会員の皆様のご協力で、今年で15回目を迎えることができました。

当日は通勤の皆さんがかなり残る8時30分前から会員約40名と横浜市生活衛生課から2名の方が集合し、展示パネル等の設営を行い、設営終了後、山川企画広報委員会委員長から挨拶があり、午前10時前にイベントがスタートしました。



人気のハチコーナー



通行人が立ち止まる獣類コーナー

会場には獣類、鳥類、ネズミ類の剥製やスズメバチ、アシナガバチ、ミツバ

チの巣、害虫の標本等が展示され、シロアリや獣類の駆除風景、樹木害虫の食害の状況などの写真で作成したパネルも展示されました。

また、顕微鏡など昆虫類の同定に必要な諸器材や、トコジラミなどの標本類なども展示され、これらの展示物について、担当の会員が見学者の求めに応じ詳しく説明して来場者の興味をそそりました。

今年は、兵庫県立人と自然の博物館と京都大学生存圏研究所のスコットヤン先生のご協力などをいただき、ヒアリタペストリーとヒアリの各種標本をお借りし、ヒアリの特別展示を行いました。



ヒアリの特設コーナー

また、日本家庭用殺虫剤工業会、生活害虫防除剤協議会、日本防疫殺虫剤協会の協力により家庭用殺虫剤の見本を展示し、パネルなどによって薬剤の適切な使用方法などの説明を行いました。

見学者は会場内を熱心に見て回りながら、虫の種類や生態、人への影響などを熱心に確認し、駆除方法などについて詳しく質問をするなど、熱のこもった光景が会場内で多く見受けられました。また、日常生活の中で衛生害虫などの被害に悩んでいる様子の人も多く、これらの見学者には総合案内に待機した会員が相対で懇切に説明や助言を与えるなど、大盛況のイベントになりました。

また、展示に参加した横浜市のコーナーには害虫等のパネルが展示され、屋前には佐藤昌子生活衛生課長さんもお見えになり計3名の横浜市の職員さんが展示に立ち会い市民の質問に答えておられました。



展示の全景



体験コーナー・殺虫剤コーナー



旅行者も見入るゴキブリ・ネズミ展示



地元CATVの取材風景

この会場の付近には、そごうデパートや有名専門店が立地し、平日にもかかわらず買い物の行き帰りやバスターミナルに向かうついでに立ち寄る方も多く賑わっていました。また地元のCATVジュピターテレコム取材もあり当日夕方と夜のニュースで放映されました。



ぬいぐるみのお出まし



人気のマウスとキツネのぬいぐるみ

会場前ではマウスちゃんとキツネくんの着ぐるみに身を包んだ会員が、汗だくで展示コーナーに来場を誘導しつつ、子供たちに風船をプレゼントし、愛嬌をふりまき、写真撮影に応ずるなど、人気の的になっておりました。

また恒例となりました、「虫ムシ描こうコーナー」で、お子さんが描いたムシの絵を担当の会員が手作りの缶バッジに仕立て、プレゼントし好評をいただきました。



虫ムシ描こうコーナー

その後、午後4時半ごろ、展示コーナーの前にあるエスカレーターから煙が上がりはじめ、付近は薄い煙が立ち込め、消火器が使われるなどハプニングに見まわれました。その後4時45分には仕事帰りの方々の混雑、混乱を避けるため、主催者として展示終了との判断が行われ、予定の6時を待たずに、撤収、搬出作業に入り、5時30分にはすべての展示資材の撤収を無事完了しました。



自衛消防隊出動



緊急撤収作業風景

会社帰りの皆さんの来場が見込まれる夕方に、終了時間を1時間以上繰り上げたため、開催時間中の来場者は3,054名(去年は5,147名)にとどまり、予定の6時まで展示を続けたいとの強い思いが残りましたが、発煙の影響で通行が一部規制されていた現場の状況を考えると、展示終了の判断で通行される方の混乱を未然に防ぐことができたものと考えます。

最後になりますが、ご共催いただきました「よこはま西・ビル環境協議会」の皆様、ご協力いただきました「殺虫剤3団体」の皆様、ご後援頂きました「横浜市保健所」の皆様、また、お忙しい中、長時間のイベントにご協力いただきました会員の皆様に心からお礼を申し上げ、実施結果のご報告といたします。